

授業概要

現在ほど、金融の問題がクローズアップされている時代はないかもしれません。アベノミクス、インフレ政策、バブル経済……。私たちの多くは、日々の労働によってお金を手に入れ、そのお金を商品と交換して生活しています。

しかし一方で、お金の価値は一定ではありません。私たちは同じ価値の労働を一定量おこなったからといって、同じだけの商品を手に入れられるわけではありません。それは、お金の価値が変動するからです。現在では、お金の量はコントロールされていますが、これもまだ歴史上100年も経っていない事柄です。

この授業では、歴史上「お金」がどのように発生し、進歩を遂げてきたのかを、主に江戸時代を中心にして現代まで概観する講義をします。

授業計画

第1回	オリエンテーション（授業の案内）
第2回	鑄造貨幣の生成と流通（古代）
第3回	中世の貨幣と信用
第4回	貨幣流通の展開と金融活動（江戸時代）Ⅰ
第5回	貨幣流通の展開と金融活動（江戸時代）Ⅱ
第6回	貨幣流通の展開と金融活動（江戸時代）Ⅲ
第7回	貨幣流通の展開と金融活動（江戸時代）Ⅳ
第8回	これまでのまとめと中間試験
第9回	貨幣流通の展開と金融活動（江戸時代）Ⅴ
第10回	明治期財政と金融制度の整備 Ⅰ
第11回	明治期財政と金融制度の整備 Ⅱ
第12回	金融の混乱と整備の時代（大正・戦前の昭和）Ⅰ
第13回	金融の混乱と整備の時代（大正・戦前の昭和）Ⅱ
第14回	戦後日本経済の展開と銀行 Ⅰ
第15回	戦後日本経済の展開と銀行 Ⅱ
第16回	期末試験

到達目標

日本社会におけるお金の発生を、その進歩から現在にいたる流れを理解すること。

履修上の注意

- ・毎回出席を確認します。遅刻については平常の受講の様子から減点します。
- ・後半に「造幣さいたま博物館」（さいたま市大宮区、最寄り駅：さいたま新都心駅）の見学を予定しています。

予習復習

- ・前回までの内容を復習して、授業に臨むこと。

評価方法

- ・平常の受講の様子と中間試験、期末試験の合計により評価します。割合は40:20:40です。
- ・中間試験と期末試験では、授業で取りあげた史料に関する理解度を試験します。

テキスト

- ・落合功『入門 日本金融史』（日本経済評論社、2008年、2,160円、ISBN 978-4-8188-1976-4）。購入する必要はありません。
- ・福澤徹三『一九世紀の豪農・名望家と地域社会』（思文閣出版、2012年、ISBN978-4-7842-1642-0）も参考図書とします。